

学籍番号：49423057	氏名：谷城 幸季
学部学科名：農学部 デザイン農学科	
留学先学校名 国立中興大学	
<p>1. 留学の目的</p> <p>台湾での留学プログラムの目的は、台湾でしかできないこと、例えば台湾の自然や文化を学び、中国語と英語の両方のスキルを向上させることでした。さらに、さまざまな価値観や考え方を学ぶことで視野を広げ、人格を育みたいと思いました。留学中に主な目的を達成するためにいくつかの小さな目標を設定しました。</p> <p>① 台湾の環境保護活動について学ぶこと</p> <p>私は日本のユースクラブのメンバーで、食品ロスや食品ウェストの問題に取り組んでいます。各国には異なる環境保護政策があります。台湾で得た知識をクラブに持ち帰り、他のメンバーと共有して、私たちの活動に応用したいと思いました。</p> <p>② 台湾で中国語と中国文化を体験すること</p> <p>英語以外の外国語を学んだことがなかったので、新しい言語を学んでみたいと思いました。中国語は世界で最も広く話されている言語の一つであり、私が習っていた書道の有名な作品は、中国語で書かれています。さらに、台湾の茶文化に強い関心を持っていたので、得た知識と洞察を日本に持ち帰り、卒業研究に役立てたいと考えていました。</p> <p>③ できるだけ多くの人とコミュニケーションを取ること</p> <p>私の学科の授業は英語で行われ、台湾の学生や留学生と交流する機会がたくさんありました。さまざまな背景を持つ人々と交流したいと思い、コミュニケーション能力も向上させたいと思っていました。</p> <p>2. 現地での生活について</p> <p>（住居、キャンパス、友達との交流、余暇の過ごし方など）</p> <p>台湾で初めて多くのことを経験しました。寮では、初めて他の3人の学生と共有の部屋に住みました。寮生活には時折困難もありましたが、同年代の人たちと暮らすことを楽しみ、他者を尊重することの大切さを学びました。国立中興大学のキャンパスはとても広く、自然豊かでした。大学の端から端まで30分くらい、歩くのにかかったのは初めてでした。その散歩を楽しみながら、動物や花を見るのはとても楽しかったです。大学には多くの生き物が住んでいます。リスやズグロミゾゴイというゆっくり歩く面白い鳥、そして大学のマスコットでもあるガチョウなどです。特に、私はズグロミゾゴイが好きで、友達と勝手に呼んだりしていました。そのことを友人と面白可笑しく話したことは良い思い出です。さらに、キャンパス内には多くの食べ物屋さんがあり、よくそこに行って友達と食事を楽しみました。特に大学のカフェテリアでは、300円～400円で朝昼晩の食事がとれるので便利でした。</p> <p>印象に残っている授業は、基礎作物学研究法演習と認識台湾文化です。基礎作物学研究法演習では、PCRを使った遺伝子分析や、細胞培養、お茶の栽培から製造、</p>	

試飲までを学びました。お茶の製造では、チャノキの苗を植えたり、台湾特有の製造の仕方を習ったりと、お茶の研究をしたい私には魅力的な授業でした。台湾茶は日本茶と違い、発酵がとても大事でその味は日本茶とは違う香りがします。台湾の品茶の仕方やお客様をもてなすときのお茶の入れ方など、とても興味深かったです。認識台湾文化では、自然な中国語の会話表現や台湾の文化、歴史、民族、占いなどを中国語で学びました。私は中国語初心者でついていくのが難しかったのですが、教授の先生は英語でも説明していただいたり、周りの人からも助けていただいたりして、楽しみながら学ぶことができました。台湾の贈り物の文化についてのトピックが最も興味深かったです。中国語において、魚は余裕がある、豊かなという意味の漢字と同じ発音であり、縁起が良いことや、病院に持っていくにはリンゴが良い意味を持つなど様々な掛詞がありました。一番驚いたことは、日本では贈り物にハンカチは普通ですが、台湾では涙をふくハンカチを連想させるため、友達にはプレゼントしないそうです。台湾でないといけないような授業をとって、台湾の文化に深く触れることができたのはとても良かったです。

友人は同じ授業をとっていたり、大学の主催する校外学習やイベントで知り合ったりすることが多かったです。国立中興大学では多くの校外学習が無料、または安く参加することができ、持続可能な取り組みをしているバナナ農園や、石虎という台湾固有種の猫の保護施設などに行くことができました。フランス人の友人とは、自然が好きなことで意気投合し、阿里山や日月潭など多くの場所を旅しました。日月潭の美しい夕日や、原住民族の方々の民族楽器演奏、美味しい紅茶の味は強く印象に残っています。台湾人の友人は、日本のことが好きで、よくお互いの文化について話していました。臭豆腐は発酵しているために匂いがする。台湾人は臭い臭豆腐ほど美味しいことが経験からわかっているため、市場では一番臭い匂いがするお店に行くと教えてもらったことが意外で面白い発見でした。ベトナムの友人とは夜遅くに夜市まで行って豆花を食べたり、一緒に中国語を勉強したりと、大学生活らしい時間を過ごさせてもらいました。同室の日本人と一緒にショッピングに行き、日本では行ってみたことのなかった、日本の有名お寿司屋さんやセカンドハンドショップに台湾で初めて訪れたことも新たな発見があり、良い経験でした。国は関係なく、様々なバックグラウンドを持つ人と出会えたことは、かけがえのない経験だったと思います。

私は、クラブ活動にも参加しました。中国琴のクラブと中国の伝統的な絵のクラブです。中国琴はとても優しい音色の楽器です。中国琴のクラブでは、先生やTAの方々に弾き方やコツを丁寧に教えていただきました。中国の伝統的な絵のクラブでは、筆を使って、中国の伝統的な絵を描きました。先生が一人一人温かく指導くださり、素敵な絵や灯籠を作れるので、持ち帰った作品を見るといつも台湾の日々を懐かしく感じます。



3. 留学を通じて学んだこと

私は、一番に、他者を尊重することを挙げたいと思います。留学中は、他者と過ごす時間が多くなります。家族や親しい友達と過ごす日本とは違って、様々な日本人の方、違う国の方と共に過ごす場です。就職後の社会生活はこのような感じに近いのかなと勝手に思っていた時もあります。お互いに折り合いをつけたり、譲ったりして人間関係は成り立つもので、私自身も他者を尊重することの点で、自分に足りていない部分を実感することがありました。これからも、他者を尊重することはどういうことなのかきちんと考えて、自身の人間性を成長させていきたいです。

次に、計画性と実行性です。私は計画性が欠けがちなのですが、台湾に行く前に台湾に行く目的や体験したいことについての留学計画書を書かせていただく機会をいただきました。自分の考えを整理でき、何をやるべきか見失わずに済みました。目的の大部分を達成できたことが、自分は目標を達成できるのだと自信を持つきっかけになりました。

最後に、自分はどのような生き方をしていきたいのかです。留学前は、進路について迷うことがありました。しかし、留学を経験したことで、様々な人と関わって、視野を広く持てるような仕事をしたいと自身の思いに気が付くことができました。この考えは就職活動で企業研究をする中でも、自分の考えとしてありますし、自分がどのように社会に貢献したいのか、またはできるのか、についての手がかりを得た気がしています。

4. 留学経験を今後どのように活かしていきたいか

私はこれからの大学生活においても、就職後の生活においても、他者を本当の意味で尊重できるような人間になれるように努力していきたいと思っております。これからも人との関わりの中で様々なことを経験すると思いますが、尊重する姿勢を忘れずに、気持ちの良い社会生活を送れるようにしたいです。

次に、台湾の環境保全に対する取り組みや、国立中興大学の授業で得た農学の知識を学業生活やユースクラブの活動に生かしていきたいです。台湾はコンポストやマイボトル制度など日本よりも環境保全に対する取り組みが盛んだと感じました。またお茶の製造方法や食べ物の文化は日本と違う部分があります。台湾で得た知識、日本で得た知識を、農学の課題に対して、より良いアイデアを得る手がかりとして組み合わせていきたいです。

そして、様々な国の人と交流し、その楽しさを知った経験から、インバウンドのお客様を相手にするアルバイトを始めることにしました。私が台湾で温かく助けてもらったように、日本を楽しんでもらえるよう、少しでも貢献できるように頑張っていきたいと思っています。

最後になりますが、グローバル連携センター様をはじめとする留学をサポートして下さいました方々、現地でお世話になった方々に感謝を申し上げます。